

地歌舞古澤流舞の会

自歌寺にて

二十二年六月十六日午後一時開演

演目



永野 素宗緒

「門松」
謎「まや門付けの漁才などお正月の情景を歌い
ゆてたるを祝う地歌の小曲です。」

「京の四季 春秋」

松本 華子

舞妓の恋心を配しながら、長楽寺や二軒茶屋など
京の四季折々の美しさを歌う京地歌です。

「福舟」

白井 真優

ふと出会った人との恋、滅多に会えない切なさ、
恋の備えをしる秋江節です。

「所縁の月」

伊達 好子

遊里にいるときは会えなかった恋人とも今は会う
ことが出来る、と子の幸せを歌っています。

「春雨」

松本 佳也

梅と桜は恋人と自分、将来自由な身になったとき
には一緒にになりましようという歌う地歌。



舞体操「まにまに生まるる」 皆さ心に一緒、
今回は御詠歌にもなっている歌での舞体操です。

「戸別」

古澤 侑紅

古事記、伊勢物語、大和物語にある夫婦の恋恋
物語を背景に難波の芦原の景色が歌われる地歌。

「御所車」

古澤 侑佳南

地歌で御所車「端歌で一番に迷う」と言います。
深草の少将と小野小町の故事を歌っています。

「蛙」

家元 古澤 侑峯

インソップ物語から作られた地歌。蛙は蛇に飲み込
まれそうになりますが……。

「御所のお庭」

古澤 侑久

御所のお庭の風景や渡辺の綱虫退治も歌う地歌。
殆ど男舞ですが「緋の袴」けた官女「たけは女舞で
「桜川」

「桜川」

古澤 侑星

謡曲桜川にて有名な常陸の桜川の春、氷も溶けて
白波が立つ川辺には花が美しくと歌う地歌。

「火桶」

古澤 侑徳

「肌と肌とを……」 なまめかしい歌詞ですが……、
実は火桶(火鉢)、洒落のきいた粋な地歌です。

「対談」 特別出演

河内 厚郎 + 岩城 則子

河内 厚郎プロフィール
一九五二年西宮生れ、一橋大学卒、演劇評論家、文化
プロデューサー、兵庫県芸術文化センター 特別参与、
宝塚市西宮市文化振興財団理事。『宝塚映画祭』
実行委員長等、多方面で活躍。著書多数。

「櫻枕」

家元 古澤 侑峯

寄る辺のない遊女が、しめは好きな人と一緒に
なりたいという気持ちを歌う地歌。

「千秋楽」

古澤 侑峯

……

●舞の稽古中

京阪の舞を「地歌舞」又は「上方舞」「座敷舞」と呼びます。
江戸時代「歌舞伎」の所作事として発達した舞台向きの舞
が出来たのに対し、舞は平安朝白拍子の舞の流れを汲み、
宮廷の芸能や能の影響を受け、座敷舞や奉納舞として
発達しました。現代にも伝わる日本の美として国際的に
注目されています。「地歌舞古澤流」は能路地に伝わった
「御殿儀松本流」を源流としています。

●舞の稽古中

古澤流は、能の動きに近い人間の自然な動きに即した歩
き方、立ち方を基本と致しますので、続ける内に自然も解
えられ筋肉が付き、血管年齢も若返るといふ事例が認め
られています。又、日常を離れ、舞の世界に浸る事により、
精神的にもリフレッシュの効果を得る事ができています。
舞踊経験が全く無く、入門された方は、八二才でした。
現在は、二歳から稽古を始めた幼子が中学生になり、
最年少が小学生、最高齢九十歳です。

古澤流稽古場 ■ 東京都目黒区、京都市中央区、
宝塚市「古澤流本部」、三重県菟野市(舞体操稽古)。
★六月二日(土)フジエル／おおさかエルシアターB1
【舞と歌と語りと音楽で繰る平安絵巻】
～源氏物語(空舞)と「舞生門」并川藤之介～
午後四時開演(開場三時半)前売り五千円
源氏舞・地歌舞・古澤流舞、歌・語り・伊弉衣舞
舞生門で古澤は三夜卓変わり。
そして源氏舞では、笛(阿部慶子)やヤススキー演奏と舞い、
ピアノ(吉田幸生)でも舞わせていただきます。

★八月三日(五)日源院命日に大津「融神社」にて奉納舞。

地歌舞「夕顔」(奥上) / 古澤流舞

地歌舞演奏「融」(新舞柳) / 菊聖公一尺八演奏(空) / 藤原道山

一般参加 御志納千円